環境農業新聞購読方法
年3,000円
毎月10日発行
FAX、メールでお申し込み下さい。
郵便振替口座　00150-2-290578

THE ENVIRONMENT & AGRICULTURE NEWS
環境農業新聞
メール：ecoagri@pure.ocn.ne.jp

2014年（平成26年）
7月10日（木）
第150号
毎月10日発行
平成13年4月17日
第三種郵便物認可

発行所　環境農業新聞社
編集発行人　成瀬一夫
東京都葛飾区東金町1-41-9
〒125-0041　フランス堂ビル3階
電話　03-3826-5212
FAX　03-3826-5217
年間購読料　3,000円（税・送料込）
郵便振替口座　00150-2-290578

講演会

女性であることの喜びー女性の喜びが世界を変える

三位一体を癒すレメディ

由井寅子会長の感動的な講演

約300名参加した講演会（講演する由井会長）

抱きしめて欲しい

母親の愛というものは深い

農業生産法人日本豊受自然農㈱、日本ホメオパシー医学協会の存在に輝きが増し、時代が大きく変わってきそうな雲行きになっている。それは医学と農業、そして日本人の心に革命を起こそうと懸命に訴える由井寅子会長の姿に共鳴する人々が現れ出したからであろう。7月6日に東京・池尻大橋で開催された講演会「女性であることの喜びー女性の喜びが世界を変えるー」に日曜日にも拘わらず会場満席の状態で、報道機関、初めて参加者も数多く見受けられた。由井会長のパワーに圧倒され、また、講演も感動、感動の連続で由井会長の活動には目を見張るばかりである。

講演会は、由井会長自身の幼い頃から社会人になって経験したことを語りながら「何のために生きるのか」と自問自答。病気になった時に「考え方が間違っているというお知らせだった」と捉え、自分の考え方が間違っている時に、病気になって、軌道修正してくれることを知ったと言う。

市民グループが行った「今まで死にたいと思ったことがありますか」という調査結果を挙げながら「男性は20%、女性は30%。男性は弱音を吐かず実行してしまう。女性は相談するので自殺を回避する」と分析し、「女性は絶対的な包容力を持っている」と語った。「女性に抱きしめてもらいたい」と思う人は多い。母親の愛というものが深い、子供の頃から知っているからであろう。

8月16日に講演会

人生を楽に生きるための奥義

CHhom東京校、ホメオパシー医学協会などが入っている池尻大橋の建物から世田谷の用賀に9月に移転・開校となるが、現在の場所最後となるイベントが8月16日午前10時から午後12時30分まで毎年恒例の【納涼　お盆特別企画】人生を楽に生きるための奥義〜愛こそすべて〜を開催する。

参加費は一般：3千円、とらのこ会員：2千円。

申込は各校に。東京の場合、電話03−5779−8005に。

運命を握っている

由井会長は「母親が握る子供の運命」と言い「無力な子供に愛で包み込み育てるのか、暴言や無関心で育てるのか。将来どんな人間になるのか母親がその運命を握っている。女性が幸せになることが大事。子供は3歳まで側に置いてやって下さい。そうすれば、力強い大人になるでしょう」と語り、「子供は家庭の中に自分の居場所を探し、周りの状況に合わせた役割を演じるようになる」とも語った。

母親と娘の愛情

次にビデオで健康相談会の模様を流し、母親と娘の愛情について詳しく説明。自己愛の欠如や心と体と魂の三位一体を癒すそのレメディを紹介。一杯泣いてね。硬くなった心をとかしてねと、由井会長が両手で包むように抱いたらその女性の目から大粒の涙。42年間ふたをしていたことが多発性子宮筋腫になったと原因を推察しレメディーを選択した。その後、そのレメディーを摂ってその女性は改善に向かっていることが報告された。

（由井会長の20年の臨床経験から生み出されたホメオパシーの手法は三位一体を癒す手法で、ZENメソッドと呼ばれる。ホメオパシーの歴史の深い海外のホメオパスたちが由井会長の手法を学び、海外から難病のケースの相談がきている）。

「人間は人との関係の中で生きているので無視されることが一番つらい」と由井会長は話を続ける。

男性より上です

「女性は感じる力は男性より上です」と言い、由井会長自身、農業をやりたいと思い、農薬、化学肥料を使用しないで自然農を実践している。「食事を預かる女性が農業をやることで日本が変わる。自然の中にいると素晴らしいことを感じることができるようになる。大震災の時、水と食べ物の重要性を知ったこともあるが、北海道洞爺に30反、静岡県函南に30反の農業を行うようになった」と語った。そして「人間と同じように植物も愛情を注げば、それに応えてくれる。植物の力を借りたヘチマ水の化粧品は肌をつるつるにしてくれる」と女性の経皮毒への問題にも対応した自然な野菜やハーブを使った無添加化粧品作りにも取り組んでいる。

マンガンが必要

さらにマンガンの重要性も説き、「愛を発信するには自然農で育てた作物に含まれるマンガンが必要」と強調。

由井会長はさらに「自然の手で大いなるものに感応した体験で、自分自身の尊厳を取り戻すことができた。生まれて来て良かった。自分の親は自然だということに気付いたのです。自分を許し、自分を愛することです。後ろから包み込むように抱いてあげると、すごく気持ちがいいんですね。人はみな愛されたいし、抱きしめて欲しいのです」と力強く語った。

最後に別掲の詩を読んで講演を締めくくった。由井会長は、すごい包容力だ。彼女に抱きかかえて貰いたいと思ったのは女性だけでなく、参加した男性も思ったに違いない。

男性も母親に迷惑をかけ、心配ばかりさせた思いもあり、母親の両手で「よくがんばったね」と抱いてもらいたいというのも本音かも知れない。会場を後にしてそのような会話があった。

〜女性である事の喜び　2014年夏〜

生きる事がすべて

「なぜ生きるのか？」
なんて植物は考えていないんだよ。
芽を出し花を咲かせ実がなり種が土に落ちる。
それが全てだから植物は感嘆するぐらい美しくおのおのが完璧なのだ。
「なぜ生きるのか？」と自分に問いかけたとき、自分の身に起こった苦しみを受け取りたくなかったんだよね。
作物が育たなかったときも、なぜ育たないと怒ったよね。
雨は降りしきり、風は吹き荒れ、雪は重く植物にのしかかる。
日照りで一滴の露もない乾いた大地にも植物は生えようとする。
自然のなすがままに身をまかせる偉大な植物たちよ。
君たちこそ我ら人間に自然に生きることを教える教師である。
青々とした麦は喜びに溢れていた。
大根ははち切れそうなほどの命に満たされていた。彼らは知っている。
生きているのではなく生かされていることを。
自分が自然の一部であることを知っているから生きることが全てなのだ。
私も自然の一部となり、生きることが全てとなるときがくるだろうか。
生きることがそのまま生きる目的となり、生きることがそのまま喜びとなるときがくるだろうか。
それでも畑にいて一生懸命生きている
彼らを見ていると、ちっぽけな自分のこだわりや欲がポロポロと剥がれ落ちていく。
そうやって何年も畑仕事をしていたら、自分本来の命が輝きだしてきた
私もだから今は、手塩にかけて育ててできたものをありがたくいただき、できなかったときも受け入れオロオロしながら元気に育つように考える。
これこそが自然に生きるということ。
その目で見れば周りは感激に溢れていた。
いきることを喜んでいる小さな命の菌たちがいた。昆虫たちがいた。
与えられた命を全うしているものたちで溢れていた命にいやさか！

由井　寅子